



# 琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	沖縄関係 沖縄返還交渉 -2 (対内) (閣議後 (十一・十四)   外務省外交史料館レファレンス番号 : nd)
Author(s)	-
Citation	令和元年度外交記録公開   公開日 : 2019年12月25日   外務省外交史料館管理番号 : B'5.1.0.J/U24   CD・DVD番号 : nd
Issue Date	
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/45930">http://hdl.handle.net/20.500.12000/45930</a>
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

肉  
紙  
後  
(十一  
十四)

5 アイチ大臣定例記者会見（14日）

（大臣） 臨時国会は11月29日召集が決つた。次に予算関係で中小金融、いな作対策、総理訪米等についての予備費の支出が決定した。第3に経企庁長官から44年度の経済見通しの中間報告があつた。続いて、労働、文部、法務、自治、運輸の各大臣およびアラキ国家公安委員長から、昨日のストの状況報告があつた。

なお、未発表だが、けん道の国道しよう格が決まり、放送大学について文部大臣、郵政大臣から報告があつた。

続いて、総理から、17日から出かけるが、自分としてはオキナワの本土復帰は自分自身の念願であるばかりでなく、全国民およびオキナワの住民の待望であるとの認識のもとに最善をつくしたい。最善とは本土なみ核ぬきであり、外務大臣はじめ外務当局が大いに努力して、よくレールをしいたので、このレールをこわすことなく列車を走らせることが自分の任務であるとのあいさつがあつた。参議の代理は高橋長官が外務大臣の代理は種彦大臣が務める。

なお、総理より、臨時国会は、この大問題の交渉の密着を正式に一日もはやく国会を通じて報告したいので、早く召集し、早く報告するのが総理としての当然の義務であると考えている旨の発言があつた。また、総理は、今回の外

國旅行中は、あまり発言しない由であり、同行記者は、ひ  
隠するだろうが、これはサンフランシスコで解散問題を發  
問されることに対し予めえんまくをはつたものである。

(問) ストについて経理より発言はあつたか。

(答) 全國民、全オキナワ住民が速かに本土復帰を願つ  
ていると認識するというのは、それに対するコメントでし  
よう。